

ケアポート板橋 特養2階

症例概要 利用者：90代 要介護度2

病名：認知症、鉄欠乏性貧血、脊椎骨粗鬆症

利用サービス：ケアポート板橋 特養2階（入所 R1年1月末～現在）

経過：ご自宅にて転倒し、左大腿部頸部を骨折。観血的整復固定術を施行。老健にてリハビリを継続するも、在宅復帰できずに施設入所となる。入所後は旦那様と共に特養2階で過ごされていたものの、R4年2月初旬に旦那様をご逝去。また次男様も後を追うようにご逝去され、ご本人より「家に帰りたい」と訴えが多くなる。長男様も一人暮らしのため心配をされており、コロナ禍ではあったものの、ご本人、ご家族の強い希望を叶えるべく、一時帰宅支援を行った症例。

内 容

ご利用者さんは長年に渡り、ボランティアとして不二健育会の様々な行事や活動にご尽力頂いておられた方となります。入所当時は旦那様と共に、ケアポート板橋2階フロアで一緒に過ごされておりました。毎日旦那様の事を気にかけて、長男様が面会に来られた際には、長男様の事や家の事を大変心配されておりました。

R4年1月、コロナ禍に旦那様をご逝去され、また次男様も同時期にご逝去。コロナ禍ということもあり、長男様の面会も週1回15分と制限があった為、とても心配され「お兄ちゃんは大丈夫なの？」などと訴えが頻回となっていきました。また、「家に帰りたい」と訴えが続いていたため、なんとか定期的に一時帰宅できないかと、居室担当者中心に一時帰宅の計画をチームで立案しました。

まず、ご家族に家屋調査として、ご自宅の写真をお送り頂くことから始めました。玄関の上がり框、居間までの廊下導線、椅子の有無や伝い歩きが可能であるのか、仏壇の位置や自宅のトイレの環境など情報を集め、OTにはご本人の身体レベルの評価を依頼。仏壇に手を合わせる為の、床に座る、床からの立ち上がり訓練及び階段昇降の訓練内容を計画に盛り込み、フロア職員や看護とも連携し、毎日実施して参りました。また、短期記憶が保てない状況であったため、長男様をご面会に来た際には、一時帰宅する日程をノートに記す様にご協力頂き、面会の無い日には、看護も協力し日記を習慣化することと致しました。

2月下旬、入所後初めての帰宅。自宅周辺を思い出して頂けるように、ご自宅までは車椅子を使用。「昔とだいぶ変っちゃってね。」など昔の事を振り返りながら帰宅までの道のりを楽しまれました。懸念していた玄関の上がり框も、リハビリの効果でスムーズに上がる事ができ、仏前では、周りの物を掴まりながら床に座る事ができておりました。ご自宅では施設にいる姿とは全く異なり、職員の事を気にされ「上がっ

てください。」「お茶大丈夫ですか?」と生き活きと、以前の在宅生活を思い返されておられました。

ご家族も「自宅へ帰ってくるができるとは思わなかった。ありがとうございます。」と大変喜ばれ、近所のご友人も帰宅に合わせ待って下さり、「久しぶり。元気だった?私は元気よ。同い年だけど頑張っているから、また家に帰って来てね。」の言葉に、ご本人も「また帰ってくるからお互いに頑張ろうね。」と約束をされておりました。その光景をご家族も大変喜ばれておりました。以後、ご家族のニーズから、「私も1人暮らしだから、話す機会をもっと作りたい」とご本人とご家族のニーズを共に叶えるべく、3月中旬に再度一時帰宅、ご家族の面会制限もせず、いつでもお越し頂くこととしました。

コロナ禍においても、「自宅に帰りたい」というご本人の想いを「目標」に設定し、ご家族も巻き込んだ Our team の取り組みで、リハビリ意欲の向上、施設内での役割も、テーブル拭き、下膳の手伝いから、花の水やり、洗濯物干しと、どんどん拡充していったこの症例は、ご利用者には「輝かしい1日」の提供、ご家族にも「安心を超えた感動」を感じて頂けたと思います。このお二人の笑顔はキラキラ介護賞に値すると思ひ、推薦させて頂きます。